

A. 主な動き

1. 経済

▼干ばつ

・20日、ブマコフ農業食品産業相は、9月1日まで現在の干ばつにより受けた影響を同省に報告するようモルドバ食品の関係者指示した旨報告、高温によりもたらされた損失は深刻であり25億レイ(約167億円相当)の損失を見積もっていると、諸外国から財政的支援を受けるためには本問題に関する正確な情報を要する旨言及、また、秋に蒔く高品質の種の購入及び春蒔きの種や家畜の冬の飼料の購入計画も同時に進めている旨発言。

2. 外政

▼メルケル独首相のモルドバ訪問

・22日、メルケル独首相は、モルドバを訪問し、フィアト首相との会談において、モルドバの欧州統合プロセスに関し協議。フィアト首相は、モルドバは将来の欧州統合に向け欧州基準に合致するよう包括的な改革を実施中である旨発言し、経済協力の分野でドイツからの投資の重要性に言及。メルケル首相は、モルドバはEUとの連合協定、自由貿易協定及び査証免除協定に関する交渉において顕著な進展を遂げてきている旨指摘。また、両者は、沿ドニエストル問題解決のための「5+2」者公式会合におけるドイツ及びEU諸国の関与の重要性に関し協議。

・同日、メルケル首相は、ルプ議会議長(民主党党首)、ギン

プ自由党党首及びヴォローニン共産党党首等モルドバ議会各党派代表との会談及びモルドバに駐在するドイツ企業の代表等との会談に出席。

・同日、メルケル首相は、ティモフティ大統領との会談において、ドイツはロシアと沿ドニエストル問題解決の重要性に関し協議している旨発言。ティモフティ大統領は、ロシアは国際的義務に則りドニエストル川左岸から弾薬及び軍人を域外に運び出さなければならない旨、及び、平和維持部隊の役割は終了した旨発言。

▼対EU関係

・22日、ワトソン欧州自由民主改革党(欧州議会)党首は、モルドバが10年以内にEUに加盟する可能性に言及、現在行われているモルドバとの深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)や連合協定が来年締結され、2014年には査証自由化協定が締結されることを期待していると、必要なEU基準に適合させる必要があるものの、2014年は最も現実的なタイムスケジュールである旨発言。

3. 沿ドニエストル

・22日、モルドバ訪問中のメルケル独首相は、キシナウでの演説において、沿ドニエストル問題の解決は可能であるとし、ドイツ及びEUは国際的に認められた国境の枠内でのモルドバの再統合のためドニエストル両岸のモルドバ市民に対し財政援助している旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)